京城新聞

●慶南晉州狀況

晉州地方は例年十月下旬より翌年一二月頃迄は釜山馬山又は內地より米穀買入の爲め商人入込を常とし其金額の如き例年八九十萬圓に達し本年は豐作の結果優に百萬圓以上に達する見込なりと此數月間は一年中市場の最も繁盛を極むる時機なりと云ふ然るに貯蓄心に乏しき韓人は收獲期に達せる今日既に稻作良好なるを見込み冬仕度をなすもの多く現に近頃の開市日に於ける主なる彼等の賣買品は呉服反物類にして其金額は全市場賣買高の實に三分一以上に達し其金額約二千圓を下らずと而して本年の豐作なるに反し晉州の金融大に切迫し金利の如きは金額の大小を問はず本年は一割にして本年夏期に比し約三歩强の引き上を見るに至れり之れ等多くは未收獲の稻作を豫想し金品の浪費を爲すに起因し斯る奇態なる現象を呈するに至れるならん

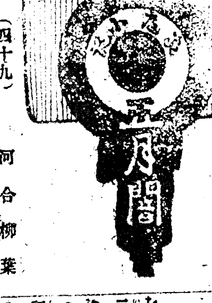
▲在留邦人の狀態を觀察するに主として商業農業を營み且つ傍ら高利貸金を爲す者多く晉州に於ける中等以上の生活をなす日本人は悉く高利貸をなすものと認むるも大過なかるべし而して晉州に於ける邦人は多少の資力と信用とを有す然れども今日未だ其事業として見るべきものなしと雖も其勢力比較的大なり之に反し韓人の勢力日に衰退し商業貿業共に振はず要するに近々數年を出ですして本邦人の一大發展を見るに至るべし

▲晉州馬山間に通ずる道路は本年中に起工せらるべき豫定なりしが工事は未だ着手せられず該道路の開鑿は間接晉州の發展上に關し影響を來すは勿論なるも在住邦人は大に之に反對しつゝあり何となれば該道路は晉州に於ける商業上其他萬般の事業に直接關係を及さゞるものなればなり且つ晉州の商業界の販路は慶尙南道及西北部は勿論遠く全羅南北道に跨り其區域實に廣大なる者なり而も之等廣大無邊の區域に供給すべき總ての物資は釜山より直に三千浦に至り夫より更に小舟の便を以て舊海倉に陸揚せられ人力によりて一々晉州に集まるものとす前者に依るを多とせり殊に晉州在住邦人は何れも晉州三千浦間の道路開鑿を希望し比せは運賃の低廉なると其他の關係により釜山より馬山を經て陸路晉州に至るものに比せは運賃の低廉なると其他の關係により前者に依るを多とせり殊に晉州在住邦人は何れも晉州三千浦間の道路開鑿を希望して止まず而して又晉州三千浦間は道路平坦にして行通至便なりとす今釜山三千浦間の航海は僅に百噸內外の船舶三隻定期航海をなしあるみの近く南韓滊船會社の創立を見る曉には晉州の發展を見るべきものあらんと

●韓國航路運賃

韓國航路に於ては海運界不振の結果社外無定期船の穀物の積取りの爲めに近時同航路に集注し往航の大割引を行ひたる爲め郵船商船尼ケ崎の協定運賃率に大に差額を生じたるより以上三會社の積荷は頗る減少し協定賃率の引下を行ひ以て社外無定期船に拮抗せざるべからざるに至り愈々茲に新協定をなしたる由なるが今大阪積出の紡績絲及び木綿の釜山、仁川及び元山の各航路に於ける新舊協定賃率を示せば左の如しと云ふ

	釜山 舊	釜山 新	仁川 舊	仁川 新	元山 舊	元山 新
紡績絲						
木綿(五十疋)	四〇	四〇	一〇	〇〇	一〇	〇〇
同(六十疋)	三〇	三〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇



(四十九) 河合柳葉

『兄さんた宅に在らして。』と、莞爾笑ひながら山川孤舟が宅に入つて來たは、お君である。見るより山川は、『馬鹿にしてやがる、兄さんが聞いて惘れらあ、可厭に媛い聲を出しやあがつて、一体今頃時分奈何して來たのだ。』『奈何してつて、マア坐敷へ往つて悠然話しませうよ。』と云ひつゝ奥の坐敷に行けば、山川も共に坐敷に入つて、『サア先づ那樣行儀正しい風を爲ないで、帶を解いて風を入れては奈何だ、外は隨分暑いだらう。』『隨分暑い事、暑い暑いけれど、俥の上ですから些ほどでもなかつたんです。』と云ひつゝも、藤色襟珍の單帶を解いて、眞紅の裾除を憚りなく露はして、扇子を雙手に不規律なく坐れば、山川は、『機嫌を取損なつてお暇が出た理ぢやあるまいね。』『馬鹿にお爲なさんなよ、相手は誰です、憚りながら姫樣お君さんですよ、華族のお坊樣位に暇なんか出されて堪り小法師があるもんですか。』『とは思つたが、餘り突然やつて來たから何か變つた事でも出來たのぢやないかと思つて。どうだ御前は嘸喜んで居るだらうね。』『喜ぶも喜ばないもお話になつたものぢやない、此間から一度お前さんの顏を見て、氣の保養しに來ようと思つて居たんだけれど、鉛にでも食付かれたやうに、奈然夜も、晝も側に附限りで放さないんだもの、いくら芝居を爲に行つてるとは云ふものゝ、與猬焦つたくて堪らないんですわ。』『それに今日は奈何して出て來たんだ。』『今日は大山と一緒に伏見の稻荷樣へ參詣をしながら、久し振りで散歩に出掛けると云ふ事だから、種々呉服屋へ注文して置いた物もあるし、兄さんにも御前から可愛がつて頂く事を話して安心させたいから、御留守中に些と暇を貰つて下さいと賴んで、やうやう夕方まで暇を貰つて來たんですわ。』



『然うか、そりや宜かつた、實は私も今日か明日かは一度顏なりと見に出かけやうと思つて居たのだが、然うしてお前が來て下れりや這麼都合の宜い事があるもんぢやない、どうだ旨く往きさうかい。』『大抵旨く行くだらうとは思ふけれど、色々と樣子を探つて見るに、私等が屋敷へ行くに就いては、大分故障が出さうな樣子なんです。それは御前のお母さんなり、親戚なり、又清川と云ふ正直頑固な家令なんです、そこで萬一の時の用意に、昨夕旨く瞞かして、奈何あつても見棄ないと云ふ書附を書したのです、すると御前の云ふには見棄ないと云ふ書附ばかりでは、お前が不安心だらうから、萬に一つ見棄るやうな事があつた場合には、三萬圓の金子を下れて、一生不自由のないやうに爲てやると云ふ事を、しかも直筆で認いて下れたんですよ。どうです、お君さんのお腕は凄いもんでござんせう。』自慢しながら、彼等から貰つた彼の書附を出した。

官吏制服廢止論

行政官にして金線銀線の服、金把銀把の帶劍抑も何の要ぞ、士民に對して威嚴を示すの謂乎、統監府が此厳めしき制服を採用したる所以のものは此威嚴の二字外何等の主意もあらざるべし、兵火を以て占領したる殖民地の統治に於ては其士民を威服せしむる爲に嚴たる制服帶劍を要するの場合あるべし、然れども韓國の保護指導には此等の必要なし、劍を拔く場合には駐劄軍ありて別に行政官吏を煩すに及ばず、金線銀線の制服は唯夫れ統監府吏たるの徽のみ、帶劍は拔く可らざる腰間の飾のみ、而して之が韓人統治に就て何の効果ありや、若し夫れ何等の効力なしとすれば斯る窮屈なる服制を存置する必要なし、余輩を以て之を見れば殆ど兒戯たるを免れず、

韓人等は統監府吏の制服帶劍に就て如何なる感を持し居るや、渠等は竊かに嘲笑を以て迎へつゝあり、渠等が統監府吏を品評するときに彼の金線銀線と稱し、或は二本線三本線と云ひて殆ど輕侮冷嘲の語氣あるにあらずや、然り渠等の目より見れば之を威嚴ありと見るの謂はれなければなり、金線銀線の服裝は海陸軍人のそれよりも優りて威光を放つにもあらず、腰に劍を帶るも之を拔く能はず、渠等の眼底には田野の案山子も同樣に感せらるゝは至當なり、渠等は案山子の動かざるが如く其帶劍は拔く可らざるを知る、之に對して冷嘲輕侮の意を寓するも畢竟案山子觀を有すればなり、異の蒙昧士蠻にして軍隊も知らず行政官の何たるをも解せざるものに對するには金線の服裝帶劍も多少威嚴を示す效力あるべし、是迚も其劍にして拔き可らざるを知らば、鳥が案山子の動かざるに慣るゝと等しく効力なきに至るべし、況や韓國人の如き半可通に對しては効力のあらざるのみか却て之に輕侮嘲笑の材を與ふるの結果を見るに至るなり、余輩は始より伊藤公が何の爲に斯る兒戯に等しき服制を定められたるかを訝りたりき如何に華麗典雅を好む伊藤公にても冷嘲を受るが如き服制を採れるは何の意たるを解せず、由來伊藤公の政策には甚だしき矛盾あり、或時は法治主義を專らとし、或時は人道主義を採り、或時は華麗典雅の儀容を朋へて威嚴を示さんとせず、之が爲に其結果に於て往々衝突して奇異なる觀を呈することあり、斯の如くにして統監府の服制は美事に失敗の形跡を印しつゝあるに非ざる乎威力を以て壓するの場合には軍隊あり、殊更に行政官吏に威力を示さしむるの必要なし、臺灣總督府の服制が幾何の効能あるやは余輩の知る處に非ざるも恐らくは唯總督府吏の徽たるに止らん、韓人嘲侮の的となるゝが如き統監府服制を存置するの要を認めず、斯る事を存置して益々嘲侮の念を抱かしむるは害あつて益なし、余輩は之が廢止を切に勸告するものなり、

正誤　一昨日所載社說中邦人とあるは法人の誤りに付正誤し併せて校合の粗漏を謝す

●漢城便り

▲去る廿四日記者は大韓醫院の開院式へ參列致候當日は陛下臨場の筈なりしが俄に御事故にて其事なく代りに尹勅使臨場勅語を傳へられ候韓廷の該醫院を重視する此一事を以ても明かなることと存候

▲丙午新政以後伊藤統監の企圖せられたる諸種の事業の中眞に日韓を通じて否世界に對して誇るに足る事業は大韓醫院の設立に有之候仁惠の額は該院の正面に懸け有り候が實に該醫院は人道主義の表現と可申者と存候

▲設立企圖者は伊藤公なりしが醫院をして今日あるに至らしめたるは佐藤博士に候而して博士を助けて働きたる役者は小竹、小山、佐々木、吉本、國分、兒島等の諸氏に有之候記者は此機會に於て博士を始め以上の諸氏に向つて其多大の勞を謝するものに候

▲醫院に次で最も目を引くものは模範監獄に候彼の獨立門附近の新築監獄の如きは囚徒取締の點より將た衞生の點より到底模範と稱するに足らざるものに候法部の有司諸氏とて余輩の所說に異論は有され間敷と存候

▲在韓日本人商業會議所聯合會昨日より開催相成候會議に登るべき議題は多々有るべしと雖ども余輩の希望は何れの議題も一般的にして地方的ならざるに有之候問題に因つては多少政治的なることあるべきも开は今日の場合決して遠慮には不申及候

▲統監府の經濟政策は今以て杜撰を極め居候此杜撰なる經濟政策の下に諸產業の發達を望むは頑强なる賊徒に投降を望むと同樣に有之候此際我商業會議所聯合會が實際的問題を掲げて當局の迷夢を破るは當然爲すべきの事にして而して余輩が同會に期待せしところに有之候

（東京電報）

▲米艦隊の解纜

米國艦隊は今朝八時橫濱を解纜す旗艦よりは二十一發の皇禮砲を放ち尚三笠との間に禮砲の交換あり我見送り艦香取、渡島、筑波、生駒は米艦隊を導きて港外に出で双方登舷禮を行ひて萬歲を叫て別れたり

▲米提督の告別辭

米提督は橫濱を去るに臨み我國の歡迎を謝する熱誠なる告別辭を公表し特に小學兒童の歡迎に就ては大いに滿足を感じたるもの〻如く感謝を極めたり（以上二十五日發）

雜報

●十三師團司令部出發期　駐韓軍第十三師團司令部及岡崎師團長は來る二十九日午後三時龍山發の臨時列車にて歸還する豫定なりと

●六師團輸送終了期　第十三師團と交替せる駐韓軍第六師團の輸送は過日來續行し居たるが來月三日龍山着の騎兵第六聯隊を以て終了する筈なりと云ふ

●守備軍隊の移動　會寧守備步兵第四十五聯隊第三大隊は十月二十六日到着△工兵第六大隊の第一中隊は十月二十二日野戰砲兵第六聯隊の第六中隊は同廿三日共に龍山到着△步兵第二十六旅團司令部步兵第五十二聯隊本部及同聯隊の一部は、月二十三日釜山乘船を終れり

●赤十字總會次第

屢々記せし日本赤十字社韓國總委員部に於ては來る三十一日午後一時より慶熙宮に於て開催さるゝ第一回總會次第は左の如し

一　十月三十一日（土曜日）午後一時慶熙宮（西大門內）に於て第一回總會を擧行す
一　當日出席社員は社員章佩用有功章併佩のこと
一　開會　爆竹を以て報ず
一　招待員社員一同式場に整列
一　社長代理委員總長代理式壇に臨む
一　委員總長代理　總裁兩殿下御眞影の覆を撤す
一　奏樂君ヶ代　一同敬禮
一　委員總長代理開會を宣告す
一　總裁殿下御諭旨
一　委員總長代理奉答
一　社長代理祝詞
一　來賓祝詞
一　委員總長代理有功章及特別社員章授與の旨を宣告す
一　總委員部事務委員受章者人名を呼上ぐ
一　社長代理有功章特別社員章授與
一　委員總長代理賞記推薦狀を交付す
一　赤十字社萬歲を三唱すること
一　委員總長代理閉會を宣告す
一　委員總長代理　總裁兩殿下御眞影の覆をなす
一同敬禮
烟花を以て報す
右畢て摸擬店餘興等開始
摸擬店　構內に設置し、ウドン、ソバ、シルコ、ヲデン、スシ、朝鮮ソバ、烟草、菓子、パン、茶、日本酒、ビールの各店あり
私設郵便局　會場內に私設郵便局及繪葉書發賣店を設け出席社員の求めに應じ紀念スタンプを押捺し發送取扱をもなすこと
餘興　樂隊奏樂、蓄音機、演藝等
救護演習　當日駐劄軍隊の一部は特に出席社員の爲め救護演習を爲す筈

注意
一　社員章佩用者に限り十一月一日（一日間）其筋の許可を得て特に昌德宮秘苑幷景福宮を拜觀せしむ
一　出席社員は社員章、有功章佩用の上必ず開會前に會場に參列すること
一　出席社員は興化門より入り係員に就き紀念品報告書及秘苑拜觀劵等の交付を受け式場に入ること
一　出席社員の爲め臨時救護所の設けあり

●韓國側の篤志表彰　今回の總會に際し左の諸氏は社資割助等の篤志に對し本社より上奏裁可を經たる上式場に於て有功章及特別社員章を授與せらるべし

有功章授與　完興君　李載冕氏
同　內閣總理大臣　李完用氏
同　正一品　閔泳徽氏
同　李[illegible]來氏
同　李根培氏
同（特別社員）李址鎔氏
同（同）李根澤氏
特別社員推薦　完順君　李載完氏
同　義陽君　李載覺氏
同　永宣君　李埈鎔氏
同　海州府院君　尹澤榮氏
同　中樞院顧問　朴齊純氏
同　度支部大臣　任善準氏
同　法部大臣　高永喜氏
同　宮內府大臣　閔丙奭氏
同　農商工部大臣　趙重應氏
同　承寧府總管　趙民熙氏
同　侍從院卿　尹德榮氏
同　完平君　李昇應氏
同　昌山君　李海昌氏
同　表勳院總裁　李載克氏

尙總會當日迄に篤志申出の向あれば右諸氏同樣推薦表彰の取扱を受く可しと

●商業會議所聯合會

在韓日本人商業會議所聯合會は愈昨日午後二時より京城日本人商業會議所樓上に於て開會式を擧げたり先づ京城會議所會頭中村再造氏開會の辭を朗讀し次で鐵道管理局長建設部長石川百代氏の祝詞演說あり終りて仁川會議所書記長萩谷籌夫氏の答辭あり之れにて式を了り夫より食堂を開き立食の饗應を受けたる後各々後庭に拵へある模擬店に入り主客充分の歡を極め和氣藹々の中に散會せしは同四時過ぎなりし當日の來賓は石塚參與官、永濱關稅總長、石川建設部長、米內相、熊谷民長、各地商業會議所代表者民會議員、新聞記者等六十餘名にて頗る盛會なりし尙は會場たる京城日本人商業會議所は玄關に大國旗を交叉し無數の各國々旗及び球燈を以て裝飾し準備裝飾とも最も周到し居れるを見たり又た同會は本日より正式の議事を開き各會議所よりの提出案に就て議する筈なり

●龍山の歡迎會

龍山居留民團の催せる駐劄軍第六師團歡迎會は既報の如く一昨日龍山本願寺後方なる鍋島侯所有地に於て開かるべき筈なりしも生憎雨天なりしかば八景園にて午後二時より開催されたり先づ席定まるや淵上民長起て歡迎の辭を述べ次で西島師團長、長谷川軍司令官代理の答辭あり終りて宴に移り主客十分の歡を盡し午後六時隨時散會したり當日來賓の重なる人々は主賓たる西島第六師團長、佐藤參謀長、稻井副官、五十君第十三聯隊長其他將校七十餘名大屋鐵道管理局長及び同局各高等官曾禰副統監代理佐竹秘書官、三浦理事官、京仁各新聞記者主客三百餘名にて藝妓の手踊烟花樂隊の奏樂等ありて近頃稀れなる盛大なりし同日は摸擬店角力踊等餘興の準備ありしも生憎の雨なりしは遺憾なりし

●仁川理事廳天長節奉祝　天長節當日仁川理事廳に於て擧行すべき御眞影拜賀式及び同夜催すべき夜會に就き確定したる所を聞くに左の如し

一、午前九時廳員一同拜賀
一、同　九時十分警察署員一同拜賀
一、同　九時四十分一般居留民拜賀（九時三十分まで來廳すること）
一、同　十時より十二時迄外國人拜賀
一、午後九時夜會

夜會參列者の注意としては九時前の來廳は迷惑なるべければ其後に於てすると食堂は午後一時に之を開けば前廳に卓に就くべく招待人は絕体に代理者を出すべからざること等なり

●鑑定官會議　關稅局に於ては昨日より鑑定官會議を開催せしが同局に於いて各稅關に於ける稅務事務に關し多少改正すべき件あるを以て鑑定官會議と同時に稅務課長會議を開催したるが仁川稅關よりは黑部稅務課長出席したり

●長谷川大將の晩餐會　長谷川軍司令官は昨日午后六時より日本人俱樂部に於て岡崎、西島兩師團長送迎を兼ね各幕僚上長官曾禰副統監各大臣統監府の重なる人々を招待して晩餐會を催されたり

●第二小學校開校式順序　本日擧行する第二小學校の開校式順序は左の如し
（一）職員兒童着席（二）來賓着席（三）副統監着席（四）民長着席（五）御眞影開扉（六）君が代（七）校長勅語奉讀（八）御聖影閉扉（九）民長の式辭（十）副統監の訓諭（十一）理事官の祝辭（十二）來賓の祝辭（十三）校長の答辭（十四）兒童總代の答辭（十五）民長の閉式辭（十六）副統監退場（十七）來賓退場（十八）民長は直に副統監及來賓を兒童成績品陳列室に案內す（十九）職員兒童退場

●第二小學校の展覽會　京城居留民團立第二尋常高等小學校にては今回の新築落成式に際し兒童成績品展覽會を擧行し廿八九日の兩日に午前八時より午後四時迄一般の觀覽を許す由にて父兄其の他多數の來觀を希居れりと

●海延間の電信不通　海州延安間の電信は一昨日午後六時三十分より斷線不通となりたり其原因は未だ判明せざれど多分暴徒の所爲ならんと云ふ

●唐津仁川間航路復舊　佐賀縣の韓國命令航路船たりし東照丸が鍋島附近に於いて坐礁したる以來同航路は杜絕し居たるが其後同縣有志者が極力再興に盡力したる結果愈々香椎丸を以て航行せしむることに決定したるが同船は昨日唐津を出帆したる由なれば釜山、木浦、群山等を經て三十日頃仁山に着すべしと云ふ

●朴泳孝の近狀　朴泳孝の濟州島に於ける近狀を聞くに同人及び一女は殆んど半永久的の設備を以て島民の教育事業に熱中し居れり即ち自身は主として男子の教育を又一女は主として女子の教育を擔當し居れば目下の處歸京の念なきと同時に政治上の野心も亦あらざるもの〻如しと

●警視總監の着任　若林警視總監は愈々本日夜南大門驛着入京する筈にて青木警視廳主理は出迎のため本日釜山に出張せり

●佐藤博士の出張　大韓醫院長佐藤博士は今回日本へ出張を命せられ本月廿九日出發の筈

●滯京中の妻木博士　過日來韓せし韓國工事顧問妻木工學博士は一昨日各大臣次官其の他を歷訪し同夜は副統監邸の晩餐會に招かれ昨日は建築所を視察して工事上の指導をなし度支部に立寄り夜は花月樓に開催する度支部官吏の歡迎會に臨みたり尙近々仁川に下る筈なり

●平賀博士の歸朝　農商工部の用務を以て滯京中の韓國工業顧問平賀工學博士は本日午前八時三十分南大門驛發列車にて歸朝の途に就く

●獨逸陸軍中佐　曩に天津より入城したる獨逸陸軍中佐マーテル氏同夫人ウオグレル氏及膠州灣より來れる學生セーベロルド、シユメイゲルの二氏は王城拜觀を出願せり

●遠藤事務官上京　鐵道管理局總務部長遠藤事務官は二十六日上京せり

●信夫理事官　仁川理事官信夫淳平氏は公用の爲め廿六日來城せり

●菊池議員の東上　民會議員菊池謙讓氏は家事を以て一昨日午前八時二十分南大門發連絡列車に搭じ出發されたり氏は大阪京都を經て東京に出で夫より鄉里に歸省し往復三週間の豫定にて歸韓さるゝ筈なり

●岡次官の從軍徽章受領　岡內部次官は卅七八年戰役從軍徽章を下賜され昨日受領せり

●鎗谷警視の清國勳章受領　內部警視鎗谷逸次郞氏は今回清國皇帝より二等第三雙龍寶星を贈與せられ其の受領及び佩用を允許せられたり

●宮館仁川所長の歸任　仁川警察署長宮舘貞一氏の一行は八日間の行程にて管內諸郡を巡歷し一昨日歸任したり今回同氏より其警察事務視察の經路を聞くに富平、陽川、金浦、通津、江華、喬桐の七郡を跋涉し各郡衙に到る每に郡內の重ちたる者多數を集め警察上の注意及び彼等の意見ある所をも徵したりと

●萩谷書記長の上京　仁川商業會議所書記長萩谷籌夫氏は昨日午後二時より擧行せる在韓日本人會議所聯合會の發會式に列席すべく昨朝入城せり

●朴局長の出張　內部臨時鐵道用地調査局長朴義秉氏は本日出發平壤義州地方に出張すと云ふ

公人私人

▲福井安佳氏（晉州勸業會社取締役）廿四日歸晉
▲岩藤英夫氏（憲兵隊附中尉）廿四日水原に向け出發
▲高松豐吉氏（工學博士）廿四日出發歸朝
▲內藤游氏（東京瓦斯會社技師）日韓瓦斯會社の用向にて滯京中なりしが廿四日出發歸朝せり
▲久水三郞氏（大邱理事官）廿四日出京浦尾旅館
▲竹內吾太郞氏（平壤[illegible]書記官）廿五日出發歸任
▲小管如潤氏（會計檢査院檢査官）釜山に向け出發
▲佐藤剛藏氏（平壤同仁醫院長）
▲奧健藏氏（大藏省技師）廿五日出發
▲藤原鶴樹氏（平壤商業會議所書記長）會議所聯合會出席の爲め來京原金
▲田中讓氏（東京石川島造船所技師）來京巴城館
▲佐久間賀次郞氏（佛國西金礦會社技師）廿五日來京原金旅館
▲武田秀雄氏（德山海軍煉炭製造所長大佐）廿五日平壤より來京天
▲貞永德五郞氏（德山煉炭製造所少佐）同上
▲林文太郞氏（平壤礦業所長）同

●近事片々

▲地方　暴徒今尙は猖獗たりと
▲韓地方亦跋扈し始めたりと傳
▲追へば散り亦集り來る恰も
▲如し之を鎮する自ら其法あらん
▲最も絕大の權限を帶びて事
▲治醫を叫ぶ世事意の如くならざ
▲餌を撒して魚を釣る利益と
▲由來各國の殖民地が發達すして良民の移住を獎勵するとは
▲國に比して寬大自由なる所ある
▲或る點に於ては祖國よりも
▲干涉強くして發展を望むは甚
▲殖民地經營に就ては深く此る所なかる可らず然らざれば
▲自由開放無干涉は殖民地初
▲秘訣之を閑却すれば到底殖民
▲爲朝報吏に統監府の內情を國本位の餘弊邦人の利益を無
▲李完用の如きは此等の事情し統監を翻弄するを怠らず
▲統監が宋秉畯の人物を稱
▲統監府は遊戲俱樂部也には此狡猾なる狂言の演ぜら
▲統監府の官吏中國分通譯を
▲事情に迂く言語通せざるの事情に通せず韓國施設の資格
▲保護政治の現狀は漸次にの不平を惹起し暴徒を作るに
▲統監政治の改善は早晩來るれ其矯正の聲も從て起らん
▲今後の改善に於て着目すべるや明なるも唯々一日も早かれ
▲要は此根本問題の決着如何を繼續する乎將た方針を一變す
▲在韓商業會議所聯合會開る其餘は唯だ快刀を以て亂麻を
▲經驗に富む實業家の實業家の選良に依て代表さる
▲米國艦隊歡迎の影響は直に局者は大に之が建議及決議を
▲反響は日英米三國同盟說を情を動かして良好の結果を呈
▲外交は由來神經過敏なり之が
▲[illegible]一時の[illegible]好感情として永遠[illegible]

●藥屋殺し

加害者は其の知人…出來事は六月二十日の夜…毒藥を飲まして殺害す

時は去る六月二十日の深更水原府南水洞居住金元裕方にて原籍奈良縣吉野郡下北山村大字下桑原當時水原府南水洞居住中家節三郎(三一)なるもの豫てより知り合ひなる吾が恩誼に預り居れる富山縣富山市南新町賣藥行商江尻文太郎(三六)といふものを毒殺し而も犯人は大膽にも土地の醫者を瞞着して腦充血症にて死したる由の診斷書を貰ひ死骸をば擔軍に托して同府東大門外一町半許りの松林に埋めしめ其の儘何喰はぬ顏をして水原附近をさまよひ且つは橫着にも被害者の賣藥の掛先きを記るせし控帳とを橫奪して商ひをなし本日迄無事日を送り居りしが疎にして漏さゞる天の網は如何で斯かる惡漢者流を何時迄も見遁すべき終に本月十九日に至り端なくも西部警察署詰大塚刑事の爲めに發覺され難なく逮捕さるゝに至れり今左に事の顚末を報道すべし

▲加害者の素性 加害者は元來是れといつて一定の職業とてはなくツマリアチ等此所等の日雇人足に雇ばれ其の日／＼を送り居れるものなるが同人が韓國に渡りたるは今より三年以前にて當時同人は咸鏡南道なる軍用木材株式會社の役人夫となり其の當坐こそ熱心に稼ぎ居りしが根が怠惰者の事とて忽ちにして仕事に飽きが來果ては飲む買ふ博つといふ道樂に結局金に困り或る夜橫着にも會社の金を窃取せんとする所を監視の爲めに發見され解雇されしより已むなく釜山草梁に來り何の爲すこともなく小山といふ下宿屋にゴロ／＼し居りしが元より一文の貯へとてなければ忽ち困窮し早速何職にか取り付かんものをと同地の口入屋に仕事先きを依賴せしは昨年の三月頃なりき

▲被害者の素性 被害者は元來賣藥商人にて韓國には長らくの間在住し重もに田舍を行商しソレに韓語に熟達せる所から商ひも盛んに得意先きも少なからず從つて今は小金も相當に貯へしが丁度同人は昨年三月頃草梁に赴き前記の小山といふ下宿屋に宿泊し且々市中は勿論其の附近を行商し居りたり

▲兩人知り合ふ 斯くて兩人は同じ下宿に宿泊し尙ほ襖一重なるよりいつしか知り合ひとなりしが折柄節三郎は未だに何等の職業にも有りつかず下宿料の支拂ひはおろか費錢にさへ窮せる始末に早速文太郎に縋りて賣藥の賣り子として使ひ呉れんことを懇願せしに性來人情脆き文太郎は一も二もなく承諾し藥品數種と現金若干とを貸し與へて其の日より行商せしむることゝはしたり

▲節三郎の野心 其の後兩人は草梁を引き揚げ所々方々田舍を行商し本年春頃水原に來りしが節三郎は最早例の怠惰者の地金を現はし碌々商ひにも出ず却て恩人の文太郎をないがしろにし若もならう事なら文太郎の賣藥と貯金とを吾が物にせんとの細からぬ野心を抱くに至りしなり

▲愈々無き者にす 此の野心を抱きし節三郎は尋常手段にては到底文太郎の財產を橫奪する能はざるを知ると共に此奴一番無き者にせばやとの怖ろしき心を起し爾來種々殺害の手段を考へしが其結果兇器を以てするよりは毒藥を以てするに如かずと決心し終に前記の如く六月二十日の夜マンマと望みの殺害したるなり

▲現場の光景 節三郎は當夜に限りて平素に似ず文太郎に對して愛想好く「お疲れでせう」とか「近頃の景氣は如何ですか」とか世辭の數々を述べ立てしが軈て夜も大分更けたれば文太郎は寢床に入らんとせしに節三郎は文太郎に向ひて「今日は上等のお茶を買ひましたから一杯呑んでは如何です」と早速茶を煎じ中に阿片を入れ文太郎に侑めしかば文太郎は何氣なく「此れは上等と…」許りに呑み干せし顏の容子をばソレとなくしばし打ち眺め居りし節三郎は更らに毒藥の効目なき模樣なるより次に今一杯と許りに朝鮮藥の神藥といふ藥を急須に入れ又々侑めしに今度こそはスッカリ効目現はれ稍々ありて文太郎は四苦八苦反側轉輾し終に虛空を摑み碧血を吐きて其の場に倒れたり

▲發覺の端緒 發覺の端緒といふは此の間西部警察署に一人の商賣人らしき男出頭し其の申し立てに「自分は賣藥商江尻文太郎といふ者の友人にて申立ての議は他に非ず、近頃不思議なことには其の文太郎氏の賣藥の帳面と印形とを所持し賣藥行商を爲し居るもの水原にさまよひ居るを見受けしが既に文太郎氏には去る六月暴徒の爲めに殺害されたる筈なれば死後他人に迄自分の寶印を遺す謂れはなく何れは胡亂な奴に相違なかるべしサテ其の者の住所といふは定かには知らねど水原南水洞居住金元裕といふものゝ家に此の春頃寄寓し居りしとかのことを耳にしたれば金方に就て尋ねらるれば判明いたすべし」とのことに警察にても不審に思ひ大塚刑事主任となり早速金方に赴き文太郎の住所を訊ねたるに金は現今にては文太郎が何れに住ひ居るやら知る由なきも唯不思議なるは文太郎が自分方を立ち去る際此のやうな書面を置き忘れたりと大塚刑事に示しけるより大塚刑事は其の書面の宛名を見し所「水原觀察府前白玉料理屋方玉子どのへ」と書しあるよりソレを手掛りに早速犯人の搜索に取り掛りたり

▲犯人を逮捕す 此の有力なる手掛りを發見したる大塚刑事は早速節三郎の搜索に從事せしが又之と同時に同人は水原南門外佐々木醫院に時々出入するとかのことを耳にせしかば前記の白玉亭には赴かず十九日午後何喰はぬ顏して佐々木醫院に出張し節三郎の來るを待ち構へ居りしに斯ることゝは夢にも知らぬ同人はいつもの如く病院に入り來りしより大塚刑事は折こそ良けれと直ぐさま引き捕へ本署に引致せし上種々取調べたりしが其の結果包み切れず賣藥商江尻文太郎を毒藥もて殺害せし一伍一什の顚末を自白せしといふが近來稀なる惡漢とこそいふべし

商店覗き

▲森安家具商▼ 商賣柄建物は宏大なもので二層樓の洋風巍然として聳ゆ一見宛かも會社か銀行かと思はるゝ程なり店頭には常に金目な品物のみを陳列し行人をして覺わず佇立少時容易に去る能はざらしむ技術精巧意匠妙緻東京大阪邊に於ける有數なる同業者と拮抗して毫も恥づる所なし販路廣大商風鷹揚重に諸官衙及び會社銀行の用達を勤め居れり主人は森安吉氏資產人望泥峴筋に隆々たるものなり

▲圓城吳服店▼ 吳服商としては京城同業者中錚々たるものなり商風着實にして而も淡白毫もコセ付く色なし新柄及珍柄の種類いつも絕やせしことなくソレに價格の廉價にして指しの量りが餘分なる所から顧客の氣受けよく殊に世帶持ちの御婦人連の喜びは非常なものなり、主人初め客に對して極めて丁寧慇懃客を大切にする工合は流石に大店丈けの直打ちあり電話は百五十七番場所は本町三丁目なり

●金が慾くば首を遣う

疊庖丁にて自ら首を刺す▲原因は泥狂から

南大門外御成町三丁目中村半次郎方に止宿せる島根縣平民疊職若松正一(三十)福岡縣平民木炭商安元淸次(三十)の兩名は平素至つて昵懇の間柄にて平常酒を飲むにも兩名對坐にて酌み交すといふ程なるが去る二十三日は兩名とも業を休みたれば一杯飲らうかうど動議成り立ち三時頃より酒を飲み始め面白可笑しく獻しつ押へつの上機嫌なりしも此手合のことゝて醉へば種々の愚痴も出でたる果ては淸次が正一に四十錢の貸しあれば夫れとはなく催促をほのめかせしかば何れも醉ひ居ることゝて正一は憤然として酒の座に貸金の催促をするとは酒飲みにも似合はぬ怪しからぬ何だ男らしくもない奴だ取るなら勝手に取れと云ひ放ちたれば此に端なく爭論を惹起し口角を尖らして言ひ爭ひし果て正一は淸次に向ひ其樣に金が欲しければ首を遣ろうと云ふより早く側らにありたる疊庖丁をおつ取り樣我と我が咽喉の右側に突き立長さ一寸五分程の傷を負ひたれば此光景を見たる淸次は大に驚き其庖丁を取り上げ之を止めんとせしに淸次も又右手二指に負傷し兩名とも血塗れとなつたる騷ぎに急訴に依り警官出張して取調べたるに右の次第なること判然りたれば双方とも嚴しく說諭を加へ醫師に就て治療せしめたりと

●本願寺報恩講 本日午後七時より御傳鈔の拜讀あり

●龍山座の革新劇 本町座の請元たりし峰松信夫は今回革新劇を組織し自身座元となり本夜より龍山龍山座に於て花々しく開演する由本夜の狂言は「乳姉妹」と据りたり

●三越の實用新案小切 本町二丁目三越吳服店出張所にては來月中旬頃實用新案小切類を澤山東京本店より取寄せ特別廉價にて販賣する由三越の小切と云へば評判の德用品にて東京でさへも先を爭ふて品切とならざる内にと奥樣連の早朝よりひし／＼と押懸ける程なれば當地にても定めし賑ふことならん

●無烟煉炭の發賣 太平町二丁目神田組にては長州產の無烟炭を原料として製したる煉炭の一手販賣を開始せしが同炭は汽罐燃料、室內暖爐、竈用等を主としたるものにて其特色は普通石炭に比し火力強く火持長きと煤烟なきとにありて烟筒掃除の煩もなく至極經濟にして價も亦廉なり南大門通りの巴商會は其特約店なりと云ふ

●巷のいろ／＼●

◉死んだ人 富山縣平民現住居吉野町稅關倉庫人夫川瀨佐一郎長女シグ(六)は去二十四日父の仕事先きなる古市町漢城倉庫株式會社に於て遊び居りたるが倉庫前に積みありし木材の崩れたる爲め其の下に壓死す

◉醉漢人の宅に寐込む 龍山居住坂本多郞(三三)なる無職者が一昨々日午後六時四十分頃酒を飲みグデングデンとなりたる揚句蓬萊町一丁目鐵道代用舍十八ノ一松本鹿槌方に押入り玄關に寢込み動かざるより其筋に引致する處となりたるが醉醒めたる後嚴重なる說諭をうけて引下る

◉放歌して目玉 鹿兒島縣平民旭町一丁目五十番戶理髮店同居樋口袈裟太郎(三四)は昨日午前十一時半頃理事廳前にて放歌して目玉を頂戴せり

●取消 本月二十四日貴社發兌京城新聞第九十四號第三面雜報欄に中尙宮拷問に逢ふと題し掲載の事實無之候條此全文を掲け御取消相成度此段及申込候也 隆熙二年十月二十四日 警視廳 京城新聞社御中

(平)(民)(文)(庫)

▲記者さん短篇小說の面白いのがありますが御掲載下されますか(本町二丁目水月生)▲兎も角原稿を拜見した上ならでは確答出來ません(係り)▲統監府側には實力ある人物を見出さぬが矢張りイモズルかね(小使)▲韓妓たるもの近頃非常に湧いて來た現に私しの家から四丁餘りの李某の宅に十九位のハイカラが二人居りますれ探りになつた如何です(舊王城前)▲私し過日來齒痛の爲め三度の食事もまゝならず困り居りますが何んとか工夫はありますまいか(吳服屋小僧)▲本町の林某なる妻もあり子もある五十路を越れた爺さんが昨夜貸屋の妻君と立話しをしてゐました(しるこや生)▲何れの風呂屋も湯錢を二錢に下げたら如何(月給生)▲あすこのしるこやの娘は名をきんちやんさ言ふのよ(立食孃)▲妾し東京が好のよ嗚呼日比谷公園の事など思ふと今倘彼のベンチに在るの思ありですわ(星子孃)▲貴社の平民文庫は毎日御記載下さい(霧町小僧)▲投書さへあればどれだけでも出しますから遠慮も心配もいりません大に投書されよ愛する小僧君(編輯小僧)

●天氣豫報(自廿六日午後六時至廿七日午後六時)

北の風曇 溫度降る

廿六日午前六時各地氣象概況 氣壓は南部に低く北部に高く一般に北の風吹き大邱は雨其他は曇天の所多く北西部及城津は快晴を告ぐ

落語

一ッ穴（十）

「お前の名なんぞ出す氣遣ひ無いから連れて行きナ
隣が留てもなか／＼留らない權助を連れて家を出ましたが平生は一丁か二丁歩くどモー何うも足が膨たのやれ鼻緒摺が出來たのと被仰るけれども今日のは殆難歩きてんだから早いの早く無いのぢやあ無い街を飛よ樣でございます
權「然う早く往ちまつちやア無益だ其處だ／＼
妻「然うかい…それ其處に待て御出で
權「序に名を出しちやア無益だよ
妻「好いョ出なくつても好ひから其所に待て居りやア好んだよ
權「決して御出しちやア無益ョ
妻「其所に御出でョ……御免なさいまし御免被下まし誰方も居ないの………
と格子戸へ手を掛けて與くと出來も好し車が新しいからガラ／＼と明きました
妻「御免なさい
下女「被入しやいまし誰方樣で……何んで御座います
妻「此方樣に大津屋の半兵衛さんが御在宅でございますか
女「はい……否々被入しやいませんヨ
妻「御老婆被爲ちやア不勞ません此所に下駄が有るぢやアございませんか
女「オヽ左樣でございます私は他所迄參つて今歸つた斗りですから……夫ちや御出でに成たかも知れませんでございます貴女は誰方樣………
妻「烏渡御目に掛れば分るんですから左樣被仰て下さい……
女「でございますが誰方樣でございます
妻「御目にさへ掛れば分ります
女「デすけれども御名前を御聞せ被爲て被下まし
妻「然うですか……姓名を云はなくつて分らなかつたら妾の樣な婆アが參つたと然う被仰て下さい
女「左樣でございますか………
と怪訝な顔を爲て奥へ來て見ると六疊斗りの座敷で一間の床の間に一間の違ひ棚下が袋戸棚に成て居りまして床の掛物は光琳風の花鳥物が掛つて居り四方椽に爲て腰高の障子が嵌り小形な小粋な桐の胴丸の火鉢に利休形の鐵瓶中に池田の上等が埋け込んである少し離れて枕許の所には結構なる烟草盆があつて紺布の布團の上にうと／＼檀那は仰向けに成て寢て御在でなさいます
妻「何んだよ檀那は今御休み被爲た斗りだワチ
女「姉さん烏渡／＼／＼
手まねきをするから
妾「何う爲たんだい
女「何う爲たんなつて檀那の浮氣なのには驚ろいちまつたワ

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金參拾錢 …
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 …
發行兼編輯人 秋山忠三
印刷人 高木久馬
發行所 京城… 京城新聞社